

地方研究会活動報告



「品質工学フォーラム in 神奈川」実施報告

高橋 和仁*

Kazubito Takabashi

平成31年2月22日に開催された「品質工学フォーラム in 神奈川」の概要、ならびに聴講者より貴重なご意見・ご感想を頂いたので報告する。(地独)神奈川県立産業技術総合研究所が主催で神奈川品質工学研究会が共催である。フォーラムの主旨は、神奈川県を中心とした中小企業の方々に、品質工学の基本的な考え方を含め、製造・加工分野を中心とした適用事例の講演を参考にして頂き、個別な技術課題へ品質工学を使って頂くことである。すなわち、中小企業を支援するために品質工学を知ってもらおう、使ってもらおうということが狙いであった。参加人数は40名で、内、大企業15名、中小企業11名、研究機関6名、個人3名、学会関係者5名であった。(※中小企業の定義は従業員数300名以下の会社とした。)

1. 概要

日時：平成31年2月22日(金) 13:00～17:00

場所：(地独)神奈川県立産業技術総合研究所 カンファレンスルーム

【講演会】

- (1) 開会挨拶 (地独)神奈川県立産業技術総合研究所 高橋和仁 氏
- (2) 基調講演「ものづくりと品質工学」クオリティ・ディー・スマートズ有限責任事業組合代表(品質工学会副会長) 吉澤正孝 氏
- (3) 事例研究発表
 - 発表1「プラズマ切断機における品質工学適用事例」 コマツ 齋尾克男 氏

発表2「生産プロセスの状態監視と運用方法」
埼玉工業大学 河田直樹 氏

発表3「シミュレーションを通じた宇宙航空のための品質工学の適用—JIANTの活用—」
JAXA 角 有司 氏

発表4「中小企業への品質工学導入取組み—化学反応プロセス、接着工程の最適化—」 エスケー石鹸(株) 安藤欣隆 氏

発表5「切削加工、塑性加工における製造工程の品質工学の適用事例」(地独)神奈川県立産業技術総合研究所 高橋和仁 氏

- (4) パネルディスカッション中小企業の課題「生産性向上」および「人手不足対策」と品質工学の課題司会：高橋和仁 パネリスト：各発表者

(※討論の時間が少なかったため、講演内容の質疑応答討論会に予定変更。具体的な課題への適用の仕方、大学で講座があるのかなど活発な議論がされた。)

- (5) 閉会のことば 東京電機大学 中島建夫 氏

2. 聴講者より頂いたご意見・ご感想

○浦壁昭悟(ベザレル(株)) 中小企業での応用事例を拝聴し、品質工学という概念をより知ることができた。即時異常検出への応用とともに、予知保全の分野で、生産機械の治具等が後どの位で故障するか、等への応用においても、MTシステム、AIの両方は、今後の大きな分野になると思う。予知の場合は、AIはRNNが中心となるだろう。

○濱口 直(キリン(株)) 品質工学に明るくなく、何冊か書籍を読んだりしたが、基本特性やSN比と